

別記
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

| | |
|--|--|
| (宛 先) 京 都 府 知 事 | 2023 年 7 月 28 日 |
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都府宇治市槇島町二十四16番地 | 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 株式会社微生物化学研究所 代表取締役社長 大西 徹 |

| | |
|--|--|
| 環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称 | 京都微研環境マネジメントシステム |
| 適 用 範 囲 | 株式会社微生物化学研究所 本社及び包装配送センター |
| 導 入 年 月 日 | 平成25年 5月 1日 |
| 認 証 番 号 | |
| 基 本 方 針 | 株式会社微生物化学研究所は、動物用医薬品の製造、販売に係る全ての活動、製品及びサービスの環境影響を低減する為に環境関連の法規の遵守、環境汚染の予防の推進及び環境マネジメント活動の継続的改善を図る。 |
| 環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。） | (1) 自動車燃料の年間使用量 昨年比1%減 (2) 焼却ゴミ排出量昨年度対比1%減 (3) エコキャップ運動の実施 |
| 目標を達成するための取組の内容 | (1) 自動車燃料の年間使用量 昨年度対比1%削減・・・近距離外出時の社用車使用の削減、社用車更新でハイブリッド車の導入。 (2) 焼却ゴミ排出量1%削減・・・社内廃棄物の現状把握、廃棄物分別状況の確認 (3) エコキャップ運動の実施・・・ペットボトルキャップを回収業者に届け、寄付金とすることで発展途上国へのワクチン接種へ貢献。 |
| 目標を達成するための取組の進捗状況 | (1) 自動車燃料の年間使用量 昨年度対比1%削減・・・社用車更新でハイブリッド車の導入などは特になし。 (2) 焼却ゴミ排出量1%削減・・・社内業務の一部をシステム運用またはデータ化することで、紙（焼却ゴミ）の使用量を低減した。 (3) エコキャップ運動の実施・・・自販機前に専用ボックスを設置しておりペットボトルキャップ約12,600個を回収でき、ポリオワクチン約8人分を届けることができた。 ※2021年度実績:17,800個回収(ポリオワクチン約11人分) |
| 目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価 | (1) 自動車燃料の年間使用量 昨年度対比70%削減・・・社用車更新でハイブリッド車の導入などは特になかったが社用車を46台から23台に減らしたため。 (2) 焼却ゴミ排出量1%削減・・・焼却ゴミ排出量前年比8.1%増加した。 (3) エコキャップ運動の実施・・・順調に回収できリサイクルできている。 |
| 事業活動に係る法令の遵守の状況 | 関連法規の遵守状況については、年1回確認を行っている。 |
| 環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容 | 評価・見直しの必要性については、原則1年に1回検討している。 自動車燃料の昨年度対比1%減については、70%減と大幅に達成した。これは社用車を46台から23台に減らしことが大きい。 焼却ゴミ排出量昨年度対比1%削減については、焼却ゴミ排出量前年比8.1%増加し達成できなかった。 2024年に第二研究所新棟増設予定であり、前倒しで製造が行われたことが大きいと思われる。 エコキャップ運動の実施については、昨年度対比29%減少した。値上げの影響もあったのかペットボトルのキャップの回収頻度(2021年度:6回, 2022年度:3回)が減少および自販機商品の値上げの影響があると思われる。 |

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。